

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-87	中学校	国語科	国語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	国語 704	国語 1		

1. 編修の基本方針

「言葉は、あなたと世界をつなぎ、
あなた自身の世界を作り上げる。」

次世代を担う子供たちには、予測困難な社会の中でさまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働しながら新しい価値を創り出すことが求められています。この教科書で学ぶ子供たちが、自らの手で未来を切りひらき、人との関わりの中で力強く生き抜いていくための言葉の力と豊かな感性を身につけられるよう、また、確かな力の習得を自分自身が実感し、国語を学ぶ達成感や充実感を味わうことのできるよう、次のことを基底において編修しました。

1 確かな国語の力を育む

—— 何を、何のために、どう学ぶのかが、ひと目でわかる教科書です。

生徒自身が学習の見通しをもち、身につける資質・能力を意識して、主体的に取り組めるようにしました。学習活動を系統的に編成し、インプットとアウトプットを螺旋的に繰り返すことで資質・能力の定着を図ります。

2 語彙力を高め、豊かな感性と論理的思考力を培う

—— 筋道を立てて考え、豊かに感じ、想像するための言葉を育てる教科書です。

生徒が語彙を広げ、語感を磨くことができるよう、優れた作品・文章を多数用意するとともに、論理的思考力や豊かな感性を育み、言語文化への関心を高める教材や資料を随所に設けました。

3 国語の学びを、社会生活や未来につなぐ

—— 言葉を通して、学ぶ楽しさや人とつながる喜びを実感できる教科書です。

国語の学習を教科書や授業の中だけで閉じることなく、自ら整理したり、考えたり、発信したりすることで、身につけた力をさらに強化し、生きる力に大きく転化していけるようにしました。



1

確かな国語の力を育む

—— 何を、何のために、どう学ぶのが、ひと目でわかる教科書です。

「学習」(手引き) 生徒を「主体的・対話的で深い学び」へ誘います。

- 全体を上下2段に整理し、学習の流れを明確にすることで生徒が主体的に取り組めるようにしました。

上段 (学習の流れ)

「見通しをもつ」 何を、何のために学ぶかを把握する。言語活動と〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の目標を掲げました。

学習課題 学習過程に即して主体的に学ぶ。

「捉える」「読み深める」「考えをもつ」という学習過程に即して課題を示しました。個の活動と集団での活動を行き来しながら、多様性の中で主体的に自分の考えを確立できます。

「振り返る」 自己の成長を実感する。

「何ができるようになったか」や自己の変容を意識化する小さな課題を示し、身につけた資質・能力を次の学習に生かせるようにしました。

下段 (支え)

「学習の窓」 汎用性のある学習のポイントを図解。

上段の課題に取り組む際の手がかりとして、また、身につけた資質・能力を領域や教科を超えて活用する際にも生かされます。

見通しをもつ

文章の構成に着目し、意図を捉えよう。

① 文章全体を、大きく3つに分けて読み、結論・本論・結論にそれぞれ注目し、内容を整理しよう。

② 筆者の考え(結論)をもとに、文章の要旨をまとめる。

捉える

① 文章の構成に着目し、その効果を考えよう。

② 文章と図との対応に注意し、本論の図がそれぞれ何を述べるかに示されているかを言おう。

③ 結論を導くために、序論と本論がどのような因果関係を持っているかを考えよう。

考えをもつ

① 筆者は、なぜ思ったように立ち止まらず、他の見方を試してみようか。

② 筆者の考えをもとに、生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を挙げてみよう。

振り返る

① 筆者は、なぜ思ったように立ち止まらず、他の見方を試してみようか。

② 筆者の考えをもとに、生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を挙げてみよう。

文章の構成に着目する

目的・意図を捉える

本文から「思」ことに関する言葉や慣用語をみつけ、注目の度合いや、見る時間の長さを整理しよう。

【文章の構成の例】

結論	本論	序論
結論	本論	序論
まとめ・主張	具体的な説明 事例や根拠(理由など)	導入・読者の注意・問題提起

学習の窓

目的・意図を捉える

本文から「思」ことに関する言葉や慣用語をみつけ、注目の度合いや、見る時間の長さを整理しよう。

学習(手引き)

巻頭 「学習の見通しをもとう」

1 年間の国語学習全体を見渡せます。

- 1年間の国語学習の全体像を見渡すことができます。
- それぞれの言語活動を通して、どのような資質・能力を身につけるのが明確に示されています。

「学習の見通しをもとう」

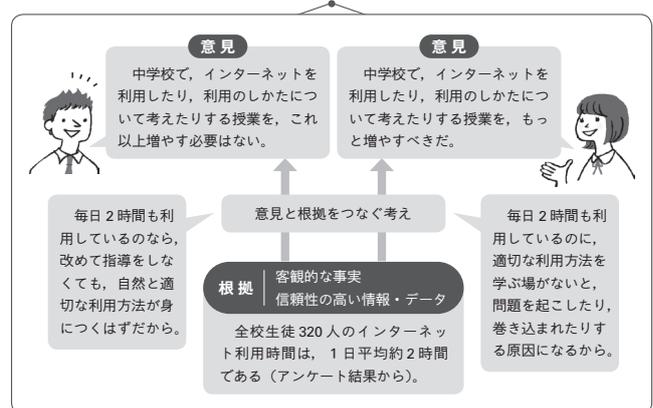
2

語彙力を高め、豊かな感性と論理的思考力を培う

—— 筋道を立てて考え、豊かに感じ、想像するための言葉を育てる教科書です。

「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」 多様化する社会に必要な、論理的思考力を育てます。

- 学習指導要領で新設された「情報の扱い方に関する事項」について、見開き2ページで解説するコンパクトな教材を設けました。
- よくある「困った場面」を出発点に、情報を「見える化」したり、「意見と根拠」「原因と結果」など、情報と情報との関係を理解したりすることの価値をわかりやすく解説しました。
- 「情報の扱い方に関する事項」を的確に理解し、論理的思考力の形成や表現に生かせるよう、1～3年まで系統立てて位置づけました。



「思考のレッスン1 意見と根拠」より

「古典の世界」「季節のしおり」

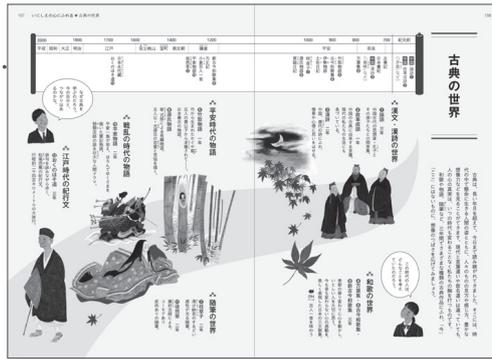
言語文化との新鮮な出会いを演出します。

【古典の世界】

- 古典の始まりを飾る教材です。伝統的な言語文化の豊かさを感じ、期待を高められるよう、鮮やかなイラストとともに多彩な作品を紹介しました。

【季節のしおり】

- 四季の言葉や詩歌を挿絵とともに紹介。生徒の感性を揺さぶるような名文や情緒あふれる言葉を厳選しました。



「古典の世界」(古典導入)



「季節のしおり」(夏)

「言葉を集めよう」「語彙を豊かに」

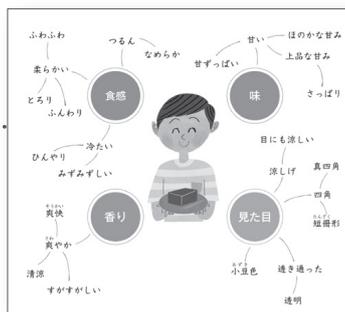
知性や感性を支える、語彙力を鍛えます。

【言葉を集めよう もっと「伝える」表現を目指して】

- 各学年に、語彙を広げ、語感を磨くことを目的とした教材を系統的に位置づけました。

【語彙を豊かに】[学習で用いる言葉]

- 教材や「学習の窓」、巻末に、思考や表現の助けとなる言葉をまとめました。



「言葉を集めよう」

巻末資料「語彙を豊かに」

3

国語の学びを、社会生活や未来につなぐ

— 言葉を通して、学ぶ楽しさや人とつながる喜びを実感できる教科書です。

「情報社会を生きる」

情報に流されずに自ら考える力を育てます。

- 情報化の進展する社会の中で、情報を疑い、適切に読み解く方法を実践を通して学びます。
- 1年では、図書館を活用した情報収集の方法や、著作権や引用に関する基礎知識を身につけ、図や表、グラフなどの情報を比較したり、文章と関連づけたりしながら読み解く方法を学びます。

「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」

読書を通して学び続ける主体を育てます。

- 読書の価値を実感し、生涯にわたる読書習慣を定着させるために、年間2か所、読書単元を設けました。
- 教科書で完結することなく、確実に「本」に手を伸ばしてもらえるよう、同じテーマで複数の作品の一部を紹介するなど、教材の示し方を一新しました。

「読書生活を豊かに(本の中の中学生)」

「情報社会を生きる」

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭 「朝のリレー」	・巻頭に詩「朝のリレー」を配しました。言葉が喚起する豊かなイメージに触れ、国語学習への期待を高めるとともに、世界の広がりやそこで生きる人々に思いを馳せ、豊かな情操と創造性を培います。	前見返し 【第一号】【第二号】
特設 言葉に出会うために	・生徒一人一人が積み重ねてきた学習履歴を尊重しつつ、小学校からのスムーズな接続を図ることで、その能力を伸ばします。生命を尊び、自然を大切にすることを学ぶ詩「野原はうたう」を題材としました。	p.14-20 【第二号】【第四号】
1 学びをひろく	・一人一人の個性や価値を尊重し、自主・自律の精神を養うとともに、多様性の中で自他への敬愛の心をはぐむために、生徒と等身大の人物が葛藤する物語「シンシュン」を位置づけました。 ・伝統と文化を尊重する心と豊かな情操を培うために、年間4か所「季節のしおり」を設けました。1年では日本の伝統美を表す「風花雪月」(春:桜, 夏:風, 秋:月, 冬:雪)にちなんだ言葉や詩歌を紹介しました。	p.22-29 【第二号】【第三号】 p.31,94,152,196 【第一号】【第五号】 p.32-33
2 新しい視点で	・幅広い知識と教養を身につけ、新たな探究心を培うことを意図して、生徒の知的好奇心を揺さぶる「ダイコンは大きな根?」と「ちょっと立ち止まって」を位置づけました。 ・新しい時代の担い手として主体的に社会の形成に参画し、多様な価値観をもつ他者と協働しながら、その発展に寄与する人材をはぐむために、「思考のレッスン」で情報と情報との関連を読み解き、論理的に思考するための基礎を築きます。 ・個性や価値を尊重し、自他への敬愛や協力を重んじる態度の育成につながるよう、「話の構成を工夫しよう」では、スピーチを通して自己を開示し、より深く互いを理解し合う活動を設定しました。	p.42-51 【第一号】【第三号】 p.52-53, p.136-137 p.54-57 【第二号】【第三号】
特設 情報社会を生きる	・情報収集・情報整理の能力を身につけ、日常生活に生かすために、「情報社会を生きる」を特設しました。情報化が進化する社会の中で、情報に流されることなく真実を見極め、主体的に活用する自主・自律の精神を養います。	p.60-66 【第二号】
3 言葉に立ち止まる	・豊かな情操と創造性を培うために、「詩の世界」を設けました。 ・語彙を豊かにすることで、表現力やコミュニケーション能力を高めることを目指し、説明文「比喻で広がる言葉の世界」と活動「言葉を集めよう」を設けました。個の価値を尊重し、敬愛し合いながら協力する態度の礎を築きます。	p.68-72 【第一号】【第二号】 p.73-76 p.80-81
特設 読書生活を豊かに	・読書を通して幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度と豊かな情操を培うために、年間2か所に読書単元を設け、読書習慣の確立を目指しました。 ・「本の中の中学生」をテーマに三つの作品を掲載。生徒と同世代の主人公が、葛藤の中で自他への敬愛や協力を重んじる心、自主・自律の精神、健やかな身体をはぐんでいく姿を示しました。 ・「本の世界を広げよう」では、生命を尊び、自然を大切にすることを学ぶ「生き物・自然」、他者への敬愛と協力をはぐむ「友達」、知識と教養を身につけ、社会参画の素地を養う「言葉」「情報」などをテーマに多種多様な書籍を紹介しました。	p.82-93, p.190-195 【第一号】 p.84-89 【第一号】【第二号】【第三号】 p.90-92 【第三号】【第四号】
4 心の動き	・生命を尊ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、戦時下の親子の状況を描いた物語「大人になれなかった弟たちに……」を位置づけました。 ・個人の価値を尊重して、自主及び自律の精神を養うため、また男女の平等に思いを巡らせるために、友人間の心の機微を描いた小説「星の花が降るころに」を位置づけました。 ・「聞き上手になろう」では、個人の価値を尊重する態度や他者への敬愛、公共の精神をはぐむために、相手の話を能動的に引き出し傾聴する、対話の力を習得します。	p.96-105 【第四号】【第五号】 p.106-115 【第二号】【第三号】 p.116-117 【第二号】【第三号】
5 筋道を立てて	・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラでは、身近な生き物の観察に基づく仮説・検証の過程を示しました。真理を求める態度を養うとともに、生命を尊重し、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を育てます。 ・「根拠を示して説明しよう」では、情報を正確に読み取り、レポートにまとめる方法を、「話題や展開を捉えて話し合おう」では、多様な価値観を尊重しつつ協力して議論を深める方法を学びます。公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画するための素地を培います。	p.126-135 【第一号】【第四号】 p.138-143 p.146-149 【第二号】【第三号】
	・我が国の伝統と文化を愛し、尊重する心を育てるために、古典の前に「音読を楽しもう 大阿蘇」を位置づけました。	p.150-151 【第五号】
6 いにしえの心にふれる	・我が国の伝統と文化を愛し、尊重する心を育てるために、「音読を楽しもう いろは歌」と「古典の世界」を位置づけました。古典の韻律の美を感じ取るとともに、主な古典作品を見渡し、その多様性を感じられるようにしました。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐんできた我が国と郷土を愛する心を涵養するために、日本最古の物語といわれる「竹取物語」と、今も生活の中に息づく故事成語を教材として位置づけました。	p.154-157 【第五号】 p.158-174 【第五号】
7 価値を見いだす	・発想の転換による、新たな価値の創出について論じた「『不便』の価値を見つめ直す」では、多様な価値観を尊重しつつ、自分の意見を確立することを促すとともに、創造性が生活や仕事を豊かにするイメージをもてるようにしました。 ・「助言を自分の文章に生かそう」では、自分が書いた書評について助言し合う活動を通して、互いの価値を尊重し、切磋琢磨する中でその能力を伸ばし、創造性を培っていくことを目指しました。	p.176-185 【第二号】 p.186-187 【第二号】
特設 読書に親しむ	・「考える人になろう」をテーマに二つの作品を掲載。真理を求める筆者の姿や、その柔軟な思考に触れることを通して、豊かな情操と道徳心を培います。 ・「本の世界を広げよう」では、生命を尊ぶ態度を養う「いのち」、自分の価値を見つめ直す「自分」、職業や勤労についての意識を高める「生き方」「夢」などをテーマに、多種多様な書籍を紹介しました。	p.190-193 【第一号】 p.194-195 【第二号】【第四号】
8 自分を見つめる	・正義と責任について思いをいたすために、心の葛藤を描いた小説「少年の日の思い出」を位置づけました。 ・「随筆二編」を読み、「構成や描写を工夫して書こう」で随筆を書くことを通して、生活や自然の中に美を見出す感性や、創造的なものの見方・考え方、豊かな情操と創造性を培います。 ・「一年間の学びを振り返ろう」では、自分や友達の成長を実感することを通して、自他への敬愛を意識化させるとともに、真理を求め、幅広い知識と教養を身につけることの価値を再認識できるように配慮しました。 ・詩「さくらの はなびら」を通して、かけがえない生命や個人の価値を尊重する心をはぐみます。	p.198-213 【第三号】 p.216-223 【第二号】 p.230-233 【第一号】 p.234-236 【第一号】【第二号】
巻末 中扉・後見返し	・時の移ろいを表す伝統的な言葉と、美しい日本の一日を感じさせる風景写真で構成しました。自然の変化をこまやかに感じ取り、言葉で表現してきた、我が国の伝統と文化を愛し、尊重する心を育てます。	中扉(p.21他) 後見返し 【第五号】
資料 学習を広げる	・我が国の伝統と文化を愛し、尊ぶ心をはぐむために、「坊っちゃん」「言葉としさの伝統芸能(落語)」を収録しました。 ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うために、「幻の魚は生きていた」を収録しました。 ・豊かな情操と道徳心、自他への敬愛の心を「手紙の書き方」「敬語を使う」を通して養います。 ・「語彙を豊かに」では、語彙を広げることで、他者との関係構築や協力の礎となるコミュニケーション能力を高めます。	p.278, 296 【第五号】 p.288 【第四号】 p.276, 299 【第一号】【第三号】 p.300 【第三号】

3. 上記の記載事項以外に意を用いた点や特色

学習上の参考に供するための資料

- 教科書の中で、「二次元コード (QRコード)」が示された箇所には、話し合いなどの動画資料や作家へのインタビューなど、生徒の興味・関心を高めたり、学習を深めたりできる資料を豊富に収めました。



「聞き上手になろう」(質問のしかたの映像)

特別支援教育への配慮

ユニバーサルデザイン・カラーユニバーサルデザインの観点から、全ての生徒に使いやすい教科書を目指しました。教科書の全ページについて、専門家の校閲を受けています。

[学習支援上の配慮]

- 学習の流れを把握し、見通しをもつことが生徒の理解を助けます。そこで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、最初の見開きで活動の全容が見えるようにしました。また、「読むこと」の「学習」も設問に番号を振り、見出しを立てて、学習のステップをわかりやすく示しました。

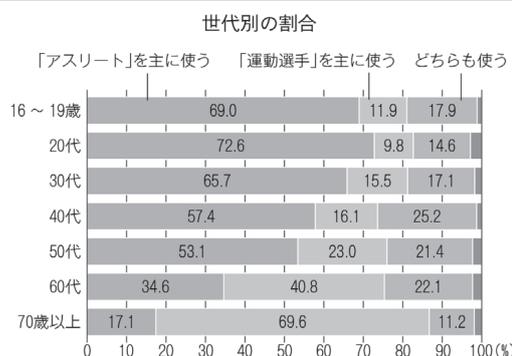
[色覚特性への配慮]

- 図表は、色に頼ることなく線の種類や濃淡、地紋でも識別できること、色覚特性により判別しにくくなる色の組み合わせは行わないことなどを基本に作成しました。

[用字や書体に関する配慮]

- 本文には、教科書のために特にデザインした自社作成の明朝体・ゴシック体を用いています。書体の特徴を損なわない範囲で画数や点画の付き方を調整し、手書き文字との差が学習上の支障とならないように配慮しました。教科書が社会生活へのスムーズな移行を後押しします。
- 漢字の読み仮名や読書案内などの小さな文字は、UD書体で視認性を高めました。

「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」から「アスリート」が「運動選手」を上回る



間に罫線を入れ、色に頼ることなく濃淡でも識別できるようにしました。

学習上の配慮を施した自社開発フォント



UD書体 (原寸大)

漢字学習への配慮

- 漢字教材や「読むこと」脚注の新出漢字欄など、漢字を学習する場では、点画の書き方や筆使いの見本となるよう、手書き文字に近い自社開発の教科書体を使用しました。
- 脚注の新出漢字欄を一新しました。本文で学習する読みだけでなく、漢字と全ての音訓を示すようにしました。学んだ漢字を他の場面にすぐ応用できる示し方にする事で、漢字の使用頻度を高め、繰り返し活用する中で定着できるようにしました。
- 漢字を習得し、書き慣れる場として、「漢字に親しもう」を新設しました。既習漢字を使った短作文や、「芸術」「自然」「様子・心情」などに用いる言葉を書く課題など、漢字の習得が語彙力の向上につながるよう工夫しました。



「読むこと」脚注の新出漢字欄

編修趣意書

学習指導要領との対照表， 配当授業時数

※受理番号	学校	教科	種目	学年
31-87	中学校	国語科	国語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	国語 704	国語 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 確かな国語の力を育む

—— 何を、何のために、どう学ぶのが、ひと目でわかる教科書です。

着実に力を育む系統性 「知識及び技能」と「思考力,判断力,表現力等」が関連し合った構成。

- 「知識及び技能」に示された指導事項を確実に押さえ、その力を活用して各領域の言語活動を行うことで、「思考力,判断力,表現力等」を無理なく高めていける構成としました。
- 学年が上がるごとに内容を深めながら、螺旋的に言葉の力を積み重ねていくことで、資質・能力の確実な定着を図ります。



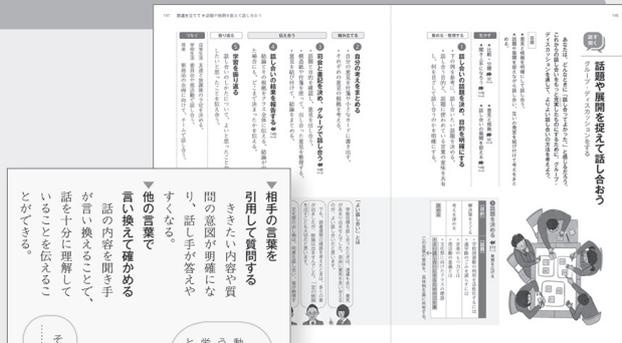
「思考力、判断力、表現力等」の教材



「話すこと・聞くこと」教材

コンパクトな構成で、課題を解決する力をしっかり身につける

- ・生徒たちの「やってみたい」を大切に、多様なテーマ・言語活動を、発達段階を考慮して配列しました。
- ・主たる学習機会は年間6か所。「主体的に聞く力」を重視し、新たに「対話・質問」の系統を、3年間通して位置づけました。
- ・最初の見開きで流れをつかみ、次の見開きで、図解や例を基に学習のポイントを身につける、コンパクトな紙面構成になりました。可視化の方法や話型などを随所に紹介し、実生活に生かせるよう工夫しています。



相手の言葉を引用して質問する
 知りたい内容や質問の意図が明確になり、話し手が答えやすくなる。

他の言葉で言い換えて確かめる
 話し内容を聞き手が言い換えることで、話を十分に理解していることを伝えることができる。

話を進めようとする
 話を進めようとする動きが、特に苦労しているところかどうか。

それはつまり……ということですか。

「話題や展開を捉えて話し合おう」

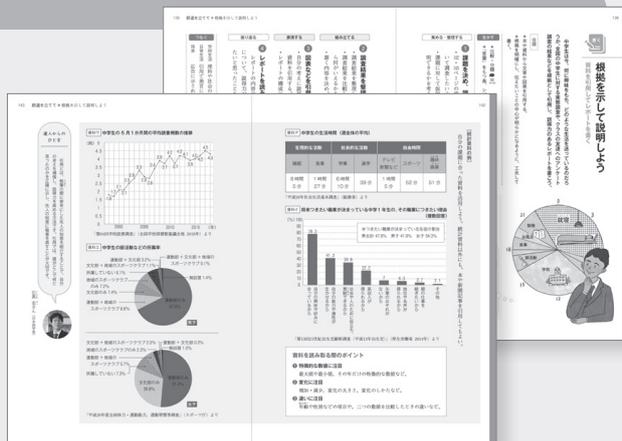
「聞き上手になろう」



「書くこと」教材

情報化社会に対応した書く力を

- ・情報を正確に読み取り、根拠をもって書く力、自分の思いや考えを価値づけながら表現豊かに書く力を身につけるために、多様なテーマ・文種を用意しました。
- ・主たる学習機会は年間8か所。グラフなどの統計資料を引用して書くレポートや、物事を評価し、価値を見いだす書く教材など、現代に必要な書く力を意識して教材化しました。
- ・可視化の方法や文型などを随所に紹介し、実生活に生かせるよう工夫しています。



「根拠を示して説明しよう」



「読むこと」教材

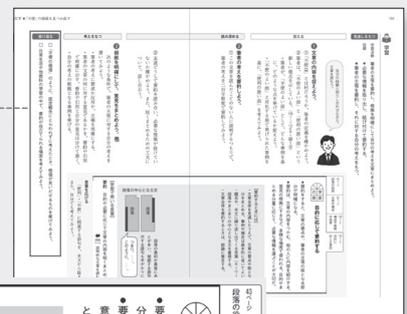
学んだ力を生かす、新しい「学習」(手引き)

- ・「学習」を上下2段に整理し、「見通しをもつ」→「捉える」→「読み深める」→「考えをもつ」→「振り返る」という学習過程を明確に示しました。
- ・下段の「学習の窓」では、年間の系統を把握できるよう、その学年で学ぶ「読むこと」の力を全て示しました。
- ・「振り返る」では、その教材で学んだことを着実に身につけ、日常や他教科に生かせるような問いを設けました。

質の高い「読むこと」教材

- ・文学的文章は、名作に加え、現代を代表する作家の書きおろしなど、読み応えのある作品を配置しています。人権教育にも十分配慮し、多様な作品を偏りなく選びました。
- ・説明的な文章は、現代社会を生きるのにふさわしい題材を選び、論理的思考のモデルとなる文章を位置づけました。
- ・絵や写真と文章を対応させて読んだり、表などを活用して考えを形成したりまとめたりする学習ができるよう工夫しています。

□ 日常生活や他教科の学習の中で、要約が役立てられる場面を考えてみよう。



「学習の窓」 目的に応じて要約する

- ・要約をする、文章の要約や、筆者の主張の要約となる部分が明確になる。
- ・要約は、文章の内容をつかむ、他人の内容を紹介する、意見の根拠にするなど、多様な場面で使われる。目的やまとめる分量に応じて、必要な情報を選びとることが大切だ。

「要約する」とは、文章の要点や核となる部分を中心と、事例や補足は基本的に省いて、人名や、本文に繰り返し出てくる語彙(キーワード)・段落まとまりの中心となる文を整理する。文章全体を要約するとは、結論に該当する。段落の最初か最後にある。とが多い。指し示す語句や指示語も手取りりなる。このように、

「説明的な文章で学ぶ力」の系統がわかります。

「『不便』の価値を見つめ直す」(学習)

2

語彙力を高め、豊かな感性と論理的思考力を培う

—— 筋道を立てて考え、豊かに感じ、想像するための言葉を育てる教科書です。

「学習の窓」「レッスン」一覧

学習で用いる言葉を自分のものに。

【文学的/説明的な文章を読むために】

- 「読むこと」教材の「学習の窓」に示した「学習で用いる用語」を一覧にし、文学・説明文それぞれの読み方を視覚的に見渡せるページを設けました。

【「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」一覧】

- 「情報の扱い方に関する事項」を解説した「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」を、図解とともに一覧にしました。



「思考のレッスン」一覧
(情報と情報との関係)

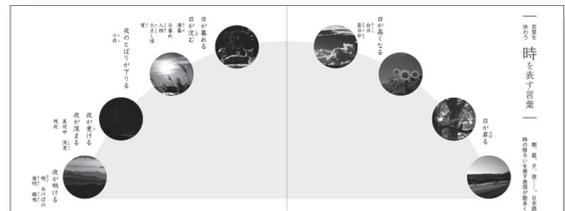
「学習の窓」一覧
(説明的な文章を読むために)

「時を表す言葉」

言葉に立ち止まるきっかけを。

【時を表す言葉】

- 日本語の豊かさや美しさに触れる場として、各単元の扉に「時を表す言葉」を紹介し、後見返しに一覧にしました。



後見返し「時を表す言葉」

3

国語の学びを、社会生活や未来につなぐ

—— 言葉を通して、学ぶ楽しさや人とつながる喜びを実感できる教科書です。

「思考の地図」 目的に応じた思考法を使えるように。

- 学習指導要領で新設された「情報の扱い方に関する事項」について、さまざまな場面で使える思考法や可視化の方法を紹介し、他教科や日常生活に広く応用できるようにしました。

社会とつながる多様な工夫 教科書から広がる学びを。

【「達人からのひと言」コーナー】

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、スピーチコンサルタントやエッセイストなど、各界で活躍されている方からのアドバイスを掲載し、実社会とのつながりを意識できるようにしました。

【学習を振り返ろう】

- 1年間で身につけた力を確認し、他教科や日常に生かすために、学年の最後に各領域の問題に取り組む場を設けました。

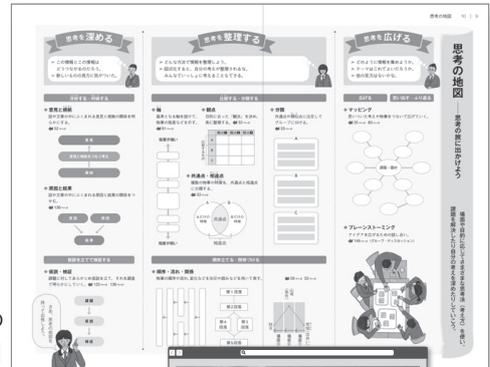
【二次元コード】

- 「二次元コード(QRコード)」には、生徒の興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びにつながる資料を収めています。

【資料「学習を広げる」】

- 巻末の資料「学習を広げる」では、「学習の窓」などの一覧の他、「手紙の書き方」「百人一首を味わう」など、国語から他教科や日常生活に広げて活用できる資料を充実させました。

「思考の地図」



達人からの
ひと言

聞き手の反応や表情を観察し、一人一人に対して、勇気を出して自分の伝えたいことを届けようとする姿勢が大切です。

松本和也さん(スピーチコンサルタント)



二次元
コード



「学習を振り返ろう」

教科書の特徴

編集上の留意点	
1 教育基本法・学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育基本法や学校教育法の理念を踏まえ、特に次の点に意を用いました。 <ul style="list-style-type: none"> ① 国語力及び学習の基盤的能力の育成、② コミュニケーション能力の育成、③ 豊かな心の育成、 ④ 情報社会を生き抜く力の育成、⑤ 社会の変化に対応する能力の育成 ◆ 学習指導要領の方向性に対応し、特に次の点を工夫し配慮しました。 <ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識・技能と活用力を身につける、② 論理的に思考し、判断し、表現する能力を養う、③ 豊かな情操と道徳心を養う、 ④ 伝統的な言語文化を尊重し、国語と郷土を愛する心を育成する、⑤ 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、自主・自立の精神を養う、 ⑥ 読書に親しみ、生涯にわたって充実した読書生活を送るための基礎を養う、⑦ 社会の形成者たる生徒を育成する
2 内容と系統	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習指導要領の各学年の目標及び内容がもれなく指導できるよう、教材を選定・作成しています。 ◆ 各単元・教材のねらいを明確にし、基礎的・基本的な内容が着実に身につけられるよう、学年内・学年間を見通して系統的に位置づけています。 ◆ 学習指導要領に示された言語活動例が、3 学年それぞれの段階でもれなく扱えるように、教材を作成・配置しています。
3 配分・配列	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「知識及び技能」に示された内容を確実に押さえ、それを活用して各領域の言語活動を行うことで、「思考力、判断力、表現力等」を無理なく高めていける構成としました。 ◆ 各学年、八つのもたまりで教材を構成しています。もたまりごとの教材数は、発達段階や学習の持続性を考慮し、軽重をつけバランスよく配列しています。 ◆ 3 学期制、2 学期制のどちらにも対応するよう、教材数・領域のバランスを工夫しています。 ◆ 各学年巻末に、本編の補充学習・発展学習に資するよう、資料となる教材を掲載しています。
4 教材の選定	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学年を通じて、発達段階を考慮するとともに、生徒の学習意欲を喚起すること、また、社会の形成者としての生徒を育成するよう、その道徳的心情や道徳的判断力が育つことに配慮して、内容・題材を選定しています。 【入門期】(1年) 小学校との円滑な連携を図れるよう配慮し、中学校生活に慣れるとともに、その学習意欲を大事にすることを考えて教材を選定しました。 【話すこと・聞くこと】 日常・社会生活、学校生活、学習場面など生徒を取り巻く身近な実の場に取材し、「話す・聞く・話し合う」ことの意義が感じられるように、発達段階に即して題材を選んでいます。また、学習活動からその後の振り返りの場に至るまで、意図的・計画的に設定しています。 【書くこと】 学校行事等の関連に配慮しながら、相手・目的の明確な題材とイメージしやすい場を設定することで、書く必然性を感じ、書く意欲が喚起されるよう工夫しています。また、取材から叙述までの表現過程を具体的に図示したり、文型やグラフ例を複数提示したりするなど、わかりやすく示しています。 【読むこと】 生徒の言語環境と発達段階に応じて、言葉の美しさや感得できる教材、家族や友人など他者への思いやりを育てる教材、社会的な認識の広がりや、ものの方、考え方の深まりが得られるような教材、他教科の内容に関連する教材など、幅広い分野から教材を精選しています。 【言葉の特徴や使い方にに関する事項】 生徒の言語生活から素材を取り上げたり、語彙を蓄え語感を磨く教材を設定したりするなど、言葉に関する興味・関心が深まるよう工夫しています。 【情報の扱い方に関する事項】 話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりする能力を身につけられるよう、情報の扱い方に特化した教材を設けました。 【我が国の言語文化に関する事項】先人の遺産としての言語作品を貴重な図版等の資料とともに多く取り上げ、生涯の宝として身につけられるようにしました。
5 地域性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 話題・題材は、農村・漁村・都市などの地域的な偏りを避けるとともに、国際的視野が育つように、バランスの取れた構成になっています。 ◆ 2年には、47都道府県全ての、郷土ゆかりの作家や作品を紹介する資料を位置づけ、郷土の言語文化への関心を高める工夫をしています。
6 他教科・日常生活等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 他教科などとの関連が図れるように、話題・題材の選定において工夫しています。 【理科】「ダイコンは大きな根?」「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 【数学・社会】「情報を読み取る」 【道徳】「大人になれなかった弟たちに……」「考える人になろう(読書)」「学校行事」「項目を立てて書く(案内文)」など ◆ 学習活動面においても、他教科の学習で活用できるよう配慮しています。 「情報を集めよう」「根拠を示して説明しよう(レポート)」「聞き上手になろう」 など
7 情報活用・ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全学年に、特設「情報社会を生きる」を位置づけ、情報の収集や発信、メディアリテラシーを系統的に学べるよう配慮しています。 ◆ 「二次元コード(QRコード)」が示してある場所には、生徒が学習を進める中で参考となり、さらに興味・関心をもって学べる資料を収めています。
8 文字提出・表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「読むこと」の新出漢字欄は、本文で学習する読みだけでなく、漢字と全ての音訓を示す形にし、学んだ漢字を他の場面にすぐ応用できるようにしました。また、小学校六年生で学んだ漢字やテーマ別に漢字を学ぶ場も工夫しています。1 教材での提出数は制限し、過重な負担とならないよう配慮しています。 ◆ 表記・表現の基準は全学年にわたって統一し、適切な表記が身につくよう配慮しています。
9 挿絵・写真・図・グラフなど	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習内容の理解を助け、イメージを豊かに広げる挿絵・写真を適所に掲げています。 ◆ 巻頭「思考の地図」や「情報整理のレッスン」、「話す・聞く」「書く」教材や、「読む」教材の手引きに、多様な表、グラフ、マップなどを配し、考えを可視化したり形成したりする技法として活用できるように工夫しています。 ◆ 非連続テキストの読み取りの学習に生かすことのできる教材を随所に設けました。(「情報を読み取る」など)
10 製本・印刷・活字など	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 製本は堅牢で、印刷は鮮明で読みやすく、特に、色覚特性に対応するために、配色・色調にも配慮しています。 ◆ 原料や製法についても、十分に配慮しました。環境に負荷の少ない用紙、植物油インキを用いています。 ◆ 本文には、教科書のために特にデザインした自社作成の明朝体・ゴシック体を用いています。また、漢字の教材や新出漢字欄など、漢字の読み書きを学習する場では、点画の書き方や筆使いの見本となるよう、手書き文字に近い、自社開発の教科書体を使用しました。 ◆ 字詰め・行詰めは、生徒の発達段階や可読性を考慮し、読みやすくデザインしています。 ◆ 漢字の読み仮名や読書案内などの小さな文字は、読みやすいUD書体を使用しています。
11 特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習上支援が必要な生徒のために、またユニバーサルデザインに対応した教科書作りという観点から、特に以下の点に配慮しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報のまとまりが認識しやすいように、各領域の教材名や覚えておきたい知識などは、アイコン・マークを付けて示す。 ・ また、グラフの中の領域を線で分けたり、図書の周りを線で囲んだりして明確に区別できるようにする。(「情報を読み取る」[「本の世界を広げよう」など]) ・ 色覚特性に配慮して、色に頼ることなく、形や線の種類、濃淡、地紋などで識別できるように作成する。また、色を問はずる学習活動を設定しない。 説明の際は、色以外の情報も合わせて示すなどして教材化を図る。(「根拠を示して説明しよう(レポート)」など)
12 小学校との連携、高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校生活への不安をなくし、明るくスタートできるよう、1年の第1教材に入る前に、小学校での既習事項を確認できる「言葉に出会うために」を設けています。 ◆ また、中学校での学習を進めていく中でも、いつでも戻って基礎・基本を確認できる場として活用できるよう工夫しています。 ◆ 3年では、高校で出会うような作家・評論家の文章や古典作品を紹介したり、小論文や文語文法(発展)を扱ったりして、連携に配慮しています。
13 その他の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 【学習を振り返って生かす場】 ◆ 各学年の終わりに、年間でつけた力を使って各領域の問題に取り組む「学習を振り返ろう」を設けました。自分の力を確認するとともに、ここで身につけた力や考えたことが他教科や日常生活で生かせるよう配慮しました。 【学習過程の重視】 ◆ 「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、学習過程が明確にわかるように示しました。また、学習過程の中で、自分の考えを形成し、それを他者と共有することを重視しました。 【読書】 ◆ 読書に対する意欲を高め、読書生活を広げていけるように、多様なジャンルの作品・文章、読書活動、読書案内、コラムを位置づけました。 ◆ 「読むこと」教材の末尾には、学習に関連する本を表紙写真とともに提示しました。紹介する本は、人権教育の観点からも吟味・検討し、選定しました。 【語彙を豊かに】 ◆ 各学年の巻頭に「続けてみよう」を設け、年間を通して語彙を増やしたり、言葉に対する感覚を磨いたりすることを習慣化できるように工夫しています。 ◆ 巻末資料「語彙を豊かに」では、心情や様子、行為を表す言葉の類義語を数多く紹介し、自分の言葉として使えるよう配慮しています。 【言葉の学習】 ◆ 各学年の第3系列には、言葉をテーマにした教材を位置づけ、さまざまな角度から言葉についてじっくり考えられる場を設定しています。 【漢字の習得】 ◆ 漢字学習に関する教材を随所に設け、楽しみながら漢字の知識が身につくようにしています。各学年6か所、「漢字に親しもう」を設け、学んだ漢字の知識やテーマごとに、漢字を集約的に学習し、文や文章の中で使える力となるよう工夫しています。

2. 対照表

[第1学年]

図書の構成・内容	学習指導要領の内容					該当箇所	配当時数
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等					
		A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと			
	朝のリレー	(1) ア					1
言葉に出会うために	野原はうたう	(1) ア				14-15	1
	声を屈ける／書き留める／言葉を探る／続けてみよう	(1) ア (2) イ (3) オ		(1) ア		16-20	4
1 学びをひらく	シンシュン	(1) ウ			(1) イ (2) イ	22-29	4
	[聞く] 情報を的確に聞き取る	(2) イ	(1) ア・エ (2) ア			30	1
	季節のしおり 春	(1) ウ				31	—
	情報整理のレッスン 比較・分類	(2) イ				32-33	1
	情報を整理して書こう	(2) イ		(1) ア (2) ア		34-37	4
	漢字1 漢字の組み立てと部首	(1) イ				38-39	—
	漢字に親しもう1	(1) イ				40	1
2 新しい視点で	ダイコンは大きな根?	(2) イ			(1) ア (2) ア	42-45	2
	ちよっと立ち止まって	(2) ア			(1) ア (2) ア	46-51	3
	思考のレッスン1 意見と根拠	(2) ア				52-53	1
	話の構成を工夫しよう	(1) ア	(1) ア・イ (2) ア			54-57	4
	漢字に親しもう2	(1) イ				58	1
	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう	(1) エ				59	2
情報社会を生きる	情報を集めよう／情報を読み取ろう／情報を引用しよう	(2) イ		(1) ア (2) ア	(1) ウ (2) ウ	60-66	3
3 言葉に立ち止まる	詩の世界	(1) ウ・オ		(1) ウ (2) ウ	(1) エ (2) イ	68-72	3
	比喩で広がる言葉の世界	(1) オ			(1) ア (2) ア	73-76	2
	言葉1 指示する語句と接続する語句	(1) エ				77-79	2
読書生活を豊かに	言葉を集めよう	(1) ウ				80-81	1
	読書を楽しむ	(3) オ				82-83	1
	本の中の中学生 あと少し、もう少し／西の魔女が死んだ／フライドの向こうに見える光	(3) オ			(1) オ (2) ウ	84-89	1
	読書案内 本の世界を広げよう	(3) オ				90-92	—
	読書コラム 本との出会い	(3) オ				93	—
	季節のしおり 夏	(1) ウ				94	—
4 心の動き	大人になれなかった弟たちに……	(3) オ			(1) イ (2) イ	96-105	4
	星の花が降るころに	(1) オ			(1) ウ (2) イ	106-115	5
	聞き上手になろう	(1) オ	(1) エ (2) ア			116-117	1
	項目を立てて書こう	(2) イ		(1) ア (2) イ		118-119	2
	[推敲] 読み手の立場に立つ	(1) ウ		(1) エ (2) イ		120	1
	言葉2 方言と共通語	(3) ウ				121-122	2
	漢字2 漢字の音訓	(1) イ				123-124	1
5 筋道を立てて	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	(2) ア			(1) エ (2) ア	126-135	4
	思考のレッスン2 原因と結果	(2) ア				136-137	1
	根拠を示して説明しよう	(2) イ		(1) イ・ウ (2) ア		138-143	5
	漢字に親しもう3	(1) イ				144	1
	[話し合い] 話し合いの展開を捉える	(2) ア	(1) オ (2) イ			145	1
	話題や展開を捉えて話し合おう	(2) ア	(1) オ (2) イ			146-149	4
	音読を楽しもう 大阿蘇	(1) ウ			(1) エ	150-151	1
	季節のしおり 秋	(1) ウ				152	—
6 いにしへの心にふれる	音読を楽しもう いろは歌	(3) ア				154-155	1
	古典の世界	(3) イ				156-157	—
	蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から	(3) ア			(1) イ (2) イ	158-169	4
	今に生きる言葉	(3) ア		(1) イ (2) ア	(1) オ (2) イ	170-174	2
7 価値を見いだす	「不便」の価値を見つめ直す	(2) ア・イ		(1) ウ (2) ア	(1) ウ (2) ア	176-185	4
	助言を自分の文章に生かそう	(3) オ		(1) オ (2) ア		186-187	2
	漢字に親しもう4	(1) イ				188	1
	文法への扉2 言葉の関係を考えよう	(1) エ				189	2
読書に親しむ	考える人になろう 君たちはどう生きるか／たのしい制約	(3) オ			(1) オ (2) ウ	190-193	1
	読書案内 本の世界を広げよう	(3) オ				194-195	—
	季節のしおり 冬	(1) ウ				196	—
8 自分を見つめる	少年の日の思い出	(1) ウ		(1) イ (2) ウ	(1) エ・オ (2) イ	198-213	6
	漢字に親しもう5	(1) イ				214	1
	文法への扉3 単語の性質を見つけよう	(1) エ				215	2
	随筆二編	(1) ウ			(1) ウ (2) イ	216-219	2
	構成や描写を工夫して書こう	(1) ウ		(1) イ・ウ (2) ウ		220-223	4
	言葉3 ささまざまな表現技法	(1) オ				224-226	2
	漢字3 漢字の成り立ち	(1) イ				227-228	—
	漢字に親しもう6	(1) イ				229	1
	一年間の学びを振り返ろう	(1) ア (2) イ	(1) ウ (2) ア	(1) ア (2) ア		230-233	5
	さくらの はなびら	(1) オ			(1) オ (2) イ	234-236	1
	文法・漢字・振り返り	文法1 言葉の単位					238-254
文法2 文の組み立て		(1) エ					—
文法3 単語の分類							—
	[練習] 小学校六年生で学習した漢字 小学校六年生で学習した漢字一覧	(1) イ				255-259	—
	学習を振り返ろう	(2) イ (3) ウ	(1) ウ (2) ア	(1) ウ (2) ア	(1) ア・オ (2) ア	260-262	3
						合計時数	120